月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下	目標収量：5,000kg 秀品：70%以上																								
栽培体系													施肥例 (10a 当り) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>肥料名</th> <th>数量 (kg)</th> <th>成分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">基肥</td> <td>完熟堆肥</td> <td>5,000</td> <td>N : 22</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>60</td> <td>P : 15</td> </tr> <tr> <td>苦土重焼燐</td> <td>30</td> <td>K : 20</td> </tr> <tr> <td>エコロング 424M100</td> <td>90</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">追肥</td> <td>有機&エイト</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>液肥 2号 トミー液肥</td> <td>48</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	数量 (kg)	成分	基肥	完熟堆肥	5,000	N : 22	苦土石灰	60	P : 15	苦土重焼燐	30	K : 20	エコロング 424M100	90		追肥	有機&エイト	20		液肥 2号 トミー液肥	48	
	肥料名	数量 (kg)	成分																																		
基肥	完熟堆肥	5,000	N : 22																																		
	苦土石灰	60	P : 15																																		
	苦土重焼燐	30	K : 20																																		
	エコロング 424M100	90																																			
追肥	有機&エイト	20																																			
	液肥 2号 トミー液肥	48																																			
病害	・ なす科以外の品目と輪作 ・ 排水の徹底 ・ 深耕、良質な有機物施用						青枯病、根腐病、半身萎凋病 葉かび病、灰色かび病、疫病、輪紋病 アブラムシ、ハダニ、アザミウマ						・ 種子量 30ml ・ 栽植株数 3,500 ~ 2,700 本 (9~11本 / 3.3㎡) うね幅 180cm 株間 30~40cm 条間 60cm (2条植え)																								
栽培上のポイント	1. 育苗 (55 ~ 60 日) 本葉 7 ~ 8 枚苗 育苗準備 ・ 排水、保水性の良い消毒した床土を準備する。(PH 5.5~6.0) EC 0.3~0.7 ・ は種床は肥料分の少ない床土を用いる。 ・ 電熱温床は早めに設置し温度調整を行う。 (250W / 3.3㎡) は種 ・ 発芽適温は 28 ~ 30 ・ 発芽後は日光を十分当てる。 鉢上げ ・ 1.5 ~ 2 葉 (3.5~4 号鉢) ・ 鉢の地温を 27 位に上げておく。 ・ 活着後は十分光線に当てる。 葉が重なり合わないよう鉢ずらしを行い、根の多いがっちりした苗を作る。 ・ かん水は午前中に行う。		2. 定植準備 ・ 排水対策の徹底 (転換畑は明・暗渠) ・ 探根性なので長期栽培できるように堆肥を十分施用し土づくりを行う。 ・ 定植 10 日前に黒マルチを行い地温を上げておく。(18 以上) ・ 施肥は大玉系品種に比べて樹勢が強いので基肥は控えめにする。 3. 定植 ・ 本葉 7~8 枚、根の充実した苗をていねいに植えて仮支柱する。		4. 芽かき・誘引 ・ 主枝 1 本仕立てとし、腋芽は早めに全てをかき取るが、晴天時に行う。 ・ 誘引は各果房の収穫終了時に、直下の下葉をかきとってつる下げし、クリップで止める。		6. ホルモン処理 (高温時は薬害が出やすい) ・ 1 花房を約 7 日間隔で朝夕の涼しい時間帯に処理する。																														
				5. ハウス管理 (適温 20~27) ・ 最高 30、最低気温は 10 以下にならないよう、6~10 月は妻窓・サイドで換気する。		7. かん水・追肥 ・ ベッドの水分を確かめてかん水し、収穫が始まったら草勢を見て、液肥等で追肥する。 N で 1~2kg / 10a をかん水とかねて行う。 8. 病害虫防除 ・ 空気湿度が高い時に葉かび病、秋の低温期に灰色かび病等が発生しやすい。 9. 収穫 ・ 完熟した果実の裂果に留意し、階級等毎に出荷する。																															